



# コミュニティと生きる オーケストラ

7年間の被災地活動から見てきたもの

The Orchestra, a new voice in the community

2017年10月14日南相馬市博物館  
「武士道と騎士道」ワークショップ  
© 山口敦



日本フィルは東日本大震災の発生直後から、被災地への音楽による支援活動「被災地に音楽を」を開始し、これまで7年間で

232回の活動を行ってきました。今回、この活動について文化庁の委託を受けて調査研究事業を行いました。これまでの実践と研究を通して得られた知見をより多くの方にご理解いただくとともに、オーケストラとコミュニティの新しいありかたについて、より広い視点から捉えなおし、皆様とともに考えを深められればと願い、本会を開催いたします。

社会構造や環境の変化に伴い、アートや音楽と社会との関係性が転換点を迎えているといわれます。これまでホールでのコンサートを通じて音楽愛好家をメイン・ターゲットに活動してきたオーケストラもまた、ホールを飛び出し、地域を走り回り、様々な他の領域と切磋琢磨し、協働し、コミュニティと新しい関係を築く時代が訪れました。音楽の様々な力が社会において発揮される時代が到来しているように思います。こうした時代の芸術とコミュニティとの関りについて、多くの皆様と一緒に考えられれば幸いです。

- 日時 平成 30 年 **2月25日**(日)  
開会 午後2時(午後5時30分終了予定) 開場 午後1時20分
- 会場 **女子美術大学 110周年記念ホール**(丸ノ内線東高円寺駅下車)
- 登壇者 **阿部和代**(南相馬市原ノ町第一中学校教諭、吹奏楽部顧問)  
**ヤマザキミノリ**(女子美術大学教授)  
**宮島達男**(アーティスト、特別ゲスト)  
**太下義之**(三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員)  
**マイケル・スペンサー**(日本フィル コミュニケーション・ディレクター)  
**平井俊邦**(日本フィルハーモニー交響楽団 理事長)
- 内容
- ・「被災地に音楽を」青少年プロジェクト事業報告
  - ・三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「被災地に音楽を」調査研究報告
  - ・ゲストによる被災地活動についてのプレゼンテーション
  - ・登壇者によるディスカッション「オーケストラとコミュニティの未来」
  - ・マイケル・スペンサーと日本フィル・ファシリテーション・チームによるプレゼンテーション
- 申込み お名前、連絡先、人数とご所属をご明記のうえ、以下の方法でお申し込みください。
- お問合せ 日本フィルハーモニー交響楽団・音楽の森(担当・別府)  
Tel 03(5378)6311 Fax 03(5378)6161  
Email [musicforest@japanphil.or.jp](mailto:musicforest@japanphil.or.jp)
- 締切 2月18日 ※定員80名。
- 主催 文化庁/日本フィルハーモニー交響楽団
- 協力 女子美術大学



**阿部 和代(あべ・かずよ)**

1960年福島県に生まれる。1983年3月国立音楽大学教育音楽科を卒業と同時に福島県の中学校教員となる。初任地で100人の吹奏楽部員を相手にしたのが吹奏楽指導の始まり。母校に赴任して8年、震災後の逆境にめげず地元に残っている子供たちと共に元気に音楽活動に取り組んでいる。8年間のうち、全日本吹奏楽コンクール全国大会出場2回、日本管楽合奏コンテスト全国大会出場6回、全日本アンサンブルコンテスト全国大会出場3回。



**ヤマザキミノリ**

東京藝術大学工芸科鍍金専攻卒業。同大学院構成デザイン修了。女子美術大学アートデザイン表現学科ヒーリング表現領域教授。空間演出デザイナー、造形作家。個展・企画展多数開催。空間演出デザインやインスタレーション、ワークショップをとおしてユニバーサルなアートメディアの研究に取り組んでいる。東日本大震災以降、学生達とアートによる心の復興支援活動として、石巻市、雄勝町、気仙沼、山元町でワークショップをおよそ30回ほど開催。日本フィル「被災地に音楽を」活動との連携ワークショップも10回になる。2017年から杉並区、南相馬市、女子美術大学連携協定による南相馬市こども文化芸術事業での取組が始まっている。



**宮島 達男(みやじま・たつお)**

現代美術家。  
1986年東京藝術大学大学院修了。1988年ヴェネツィア・ビエンナーレ、新人部門に招待され、デジタル数字を用いた作品で国際的に注目を集める。以来、国内外で数多くの展覧会を開催。世界30カ国250か所以上で作品を発表している。1997年ジュネーブ大学コンペティション優勝。1998年 第5回日本現代芸術振興賞受賞。1998年ロンドン芸術大学名誉博士授与。2006-2016年 東北芸術工科大学副学長。2012-2016年 京都造形芸術大学副学長。代表作に「メガ・デス」など。また、長崎で被災した柿の木2世を世界の子どもたちに育ててもらおう活動、「時の蘇生・柿の木プロジェクト」も推進している。  
Tatsuo Miyajima Website: <http://tatsuomiyajima.com/>  
「時の蘇生・柿の木プロジェクト」: <http://kakitreeproject.com/> Photo by Anna Kucera



**太下 義之(おおした・よしゆき)**

専門は文化政策、博士(芸術学)。  
独立行政法人国立美術館理事、公益社団法人日展理事、公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)評議員、公益社団法人全国公立文化施設協会専門委員会委員、公益社団法人企業メセナ協議会監事。文化経済学会<日本>監事、文化政策学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表。文化審議会文化財分科会企画調査会WG副座長。観光庁「世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会」委員。東京芸術文化評議会委員、大阪府・大阪市特別参与(～2015年3月)、沖縄文化活性化・創造発信支援事業(沖縄版アーツカウンシル)評議員(～2016年3月)、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、アーツカウンシル新潟アドバイザー、著作権保護期間の延長問題を考えるフォーラム発起人など、文化政策関連の委員を多数兼務。



**マイケル・スペンサー**

エドゥケーター、ファシリテーター、音楽家。  
元ロンドン交響楽団ヴァイオリン奏者、元英国ロイヤル・オペラ・ハウス教育部長。現在、Sound Strategies経営責任者。世界各地で芸術教育プログラムを開発・実践し、さまざまな芸術団体や企業から高い評価を受ける。日本でも過去20年以上にわたるプロジェクトを行ってきた。2014年3月に日本フィルハーモニー交響楽団のコミュニケーション・ディレクターに就任。定期演奏会と連携したワークショップ「オケのデキは、おもしろい」をはじめ、アークヒルズ(森ビル)、森美術館とも定期的にプロジェクトを実施。2016年度からは被災地での活動も行い、日本フィルの先進的な取り組みをリードしながら、楽団内のファシリテーター育成にも取り組んでいる。上野学園大学音楽文化研究センター客員研究員。



**平井 俊邦(ひらい・としくに)**

1942年東京生まれ。65年慶応義塾大学経済学部卒業後、三菱銀行(現・三菱東京UFJ銀行)入行、92年取締役(香港支店長、本店営業部長)を経て96年常勤監査役。98年千代田化工建設専務、2001年インテック副社長、06年インテックホールディングス副社長・共同最高経営責任者。07年財団法人日本フィルハーモニー交響楽団(現在は公益財団法人)専務理事就任、14年7月同団理事長就任、現在にいたる。

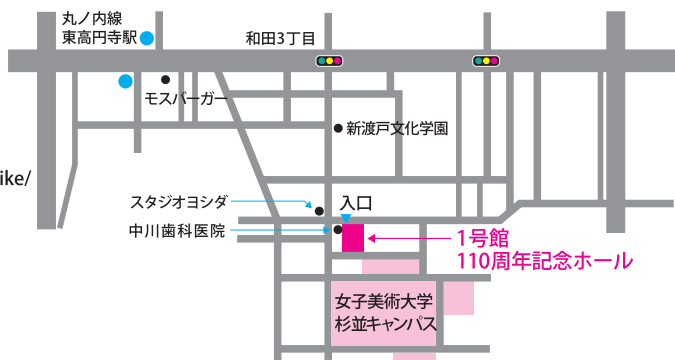


**Access**

■女子美術大学  
110周年記念ホール

東京都杉並区和田1-49-8  
女子美術大学杉並キャンパス  
<http://www.joshiabi.net/museum/nike/>

東京メトロ丸ノ内線  
東高円寺駅下車 徒歩8分  
◎駐車場はございません



**コミュニティと生きる  
オーケストラ**

7年間の被災地活動から見えてきたもの

The Orchestra,  
a new voice in the community